

# 医師は語る



医療法人社団 健翔会  
堀口医院医師 堀口 裕

新年を迎え、今年も皆様がご健康で過ごされることを心から願っております。

ここ数年を振り返ってみても、私どもを取り巻く環境がとて大きく変化しております。職場や学校、地域社会で受けるストレスは益々増え続け、また著しい気候変動と自然環境の乱れが日ごと進んでおります。そのため人の健康面においても「お年寄りだから病気になる」「若いから病気になる」という状況ではなく、もはや老若男女の別なく健康を維持できなくなっております。実際、働き盛りの若い方が大勢重い病気になっていきます。このままでは社会全体が駆動力を失ってしまい、少子高齢化とあいまって経済そのものが衰退していきます。住み心地の良い、満足感を得る、活気に満ち溢れる社会を作るためには、まず私たち一人一人が健康でなければなりません。

しかし健康を保つことは、本来容易なことではありません。私たちは油断していません。何も自覚症状がないなら、「自分は健康だ」と勝手に思い込んでいます。それが間違っていることは明白です。身近な糖尿病や高血圧、脳卒中や心筋梗塞、そして癌を考えてみても、発病までに何十年もの準備を要しています。でもその間、全く自覚症状はありません。ときには発病していても自覚症状のない場合があります。それでは自覚症状のない発病前に、一体どうやって病気の兆候を見つけ、「このままでは病気になるってしまおう！今のうちに治そう！」という気持ちになれるのでしょうか。たとえ血液検査やCT検査で異常が見つかったとしても、それは既に病気がです。私たちが常に健康を目指すなら、どうしても病気になる前に病気の兆候をつかむ必要があります。その解決策が「病気の根をみる」という考え方です。

つまり病気が起こるからには、必ず病気の根があります。何ら自覚症状がなくても、普段から「病気の根を調べ、病気の根を治療する」とことを実践しておけば、発病に至らないのです。これを「根元の医療」といいます。

昨年8月末に日本歯科東洋医学会誌(第31巻第1・2号)に「根元(ねもと)の医療を目指して―細胞内診療の導入―」というタイトルで寄稿し掲載されました。とても多くの先生方からお声をかけて頂き、この医療に関心を寄せて下さいました。そのことは医療現場に共通の問題認識があり、「病気はみても、病気の根はみていない」、言い換えれば「病気だけをみていても、病気は治せない」というお気持ちがあると思います。

分であるためにも、自分の責任で健康維持の努力をして頂きたいと思えます。そのとき「病気の根をみる」という考え方が必要不可欠なのです。

\*\*\*\*\*

【堀口裕先生プロフィール】

北海道北見市出身。川崎医科大学卒。一九九二年、香川県坂出市に医療法人 健翔会 堀口医院開院。「細胞内診療」の第一人者。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案。世界各国で特許を取得。また細胞のコンディショニングを整える「還元電子治療」を独自に開発。現在、体の状態を多角的に調べ、根本的な治療を目指す最先端の「自己防御力診断」を駆使し、全国で一万五千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、全国で講演活動を行っている。